



春風通信

Haru kaze Communication



議員の仕事は市民の暮らしを守ることに、声を形にすること!

皆様からのご支援により5期目のスタートを切ることができました。心から感謝申し上げます。選挙時に掲げた公約①不登校やひきこもりなど若者支援の充実②障害があっても高齢であっても誰もが必要とされる社会の創出。③防災・減災の充実。④文化芸術の力で活力を。⑤多様な市民活動を支える。⑥議会改革、議員改革を推進。を果たすべく活動を開始しています。暮らしに一番身近な市政の場で、お寄せいただく声を形にするため、議会質問や調査を重ね「政策実現率トップクラス」とのご期待に応えて参ります!

物価高騰から暮らしを守る!

5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類となり、新しい生活用式にも慣れ、人の交流も経済も回復しつつあります。高松市では5月末にも臨時議会を開き、住民税非課税世帯の支援や学校給食費用の補助など支援策を決定しましたが、6月からの電力料金の値上げ等で先行きは不透明な状態が続きます。香川県の消費物価指数は上昇していますが、全国平均と比べるとまだまだ低く、更なる対策が必要です。6月定例議会に公明党会派を代表して質問に立ち(中面参照)、今後も躊躇なく必要な支援策を講じるよう求めました。

下記に5月末の臨時議会、6月定例議会で決定した支援策のうち4つを紹介します。

早速、実現しました!

当選後、私の公約(マニフェスト)や公明党が統一地方選挙の重点政策として掲げてきたことを実現するために折衝を重ね、6月定例議会に臨み「こども子育て世代」を応援する2つの取り組みが実現することになりました。

- ①不登校やひきこもり支援を充実させる「居場所・学びの場」への支援。
 - ②奨学金返還支援制度の創設
- *詳細は紙面中面をご覧ください。

春田の公約はこちら



高松市議会で決定した支援策

物価高騰からのご家庭支援策

★住民税非課税世帯・生活支援給付金の受付開始

- 給付額 1世帯あたり3万円
- 申請期間 7月3日～9月29日【消印有効】
- コールセンター TEL826-0447
- *給付時期は7月中旬以降順次。



★省エネ家電(エアコン、冷蔵庫)購入支援事業費

- 補助額 購入経費の25%相当額(上限4万円)
- 実施期間 令和5年8月16日～10月15日
- *詳細は追って公開

中小企業支援策

★中小企業等省エネ化・コスト削減機器等導入事業補助金

- 補助率4/5 補助額20万円～80万円
- 受付期間 令和5年7月10日～8月9日
- コールセンター TEL826-5218



★中小企業等デジタルビジネス推進支援事業

- 通常枠 補助率1/2補助額5万円～100万円
- デジタル化基盤導入枠 補助率2/3
- 補助額:1機能～50万円,2機能以上～200万円

活動報告

4月7日

五色台分校開校式に出席



「児童心理療養施設若竹学園の子供たちの学習環境を良くしたい」と長年尽力してこられた皆様の声を後押しし、ようやく立派な建物が完成しました。プレハブの分教室から教育環境の整った「五色台分校」として再出発を行いました。

5月27日

たかまつ讃岐てらす財団設立準備会に参加



「市民の、市民による、市民のための財団を創りたい!」仲間たちと9月に財団設立を目指してスタートしました。この活動は谷谷正明参議院議員も推進してきた「休眠預金活用事業」を活用し、高松市の多様な市民活動を支える取り組みを推進していく取り組みとなります。

会計報告 [政務活動費]

2023年4月～6月

経費の区分	金額
1 調査研究費	29,234
2 研修費	0
3 広報費	0
4 広聴費	0
5 要請・陳情活動	0
6 会議費	14,800
7 資料作成費	58,092
8 資料購入費	0
9 人件費	0
10 事務所費	0
合計	102,126円

市民相談件数

2023年4月～6月 42件 【累計 2,173件】

ご相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

主な活動実績

2023年4月～6月

- 4月7日 五色台分校 開校式 出席
- 23日 高松市議会議員選挙 5回目の当選
- 27日 監査委員会 出席
- 5月13日 香川の次世代を考える地域円卓会議出席
- 16日 第2回高松市議会臨時議会 出席
- 17日 監査委員 引継ぎ
保護司研修会 参加
- 20日 弦打小学校運動会 参加
ときわ幼稚園評議員会 出席
- 21日 G7都市大臣会合関連イベント
都市シンポジウム 参加
- 27日 勝賀中学校運動会 参加
NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク
かがわ総会 出席
- 27日 たかまつ讃岐テラス財団設立準備会 参加
- 30,31日 第3回高松市議会臨時議会 出席
- 6月3日 G7都市大臣会合関連イベント
学生サミット 参加
- 10日 ソーラーシェアリング現地見学会 参加
- 11日 高松市総合防災訓練 出席
- 16日 高松市社会福祉審議会 出席
- 22日 高松市議会全議員協議会 出席
- 23～10日 第4回高松市議会定例議会 出席
- 23日 NPO 法人アーキペラゴ総会 出席
- 25日 香川県腎臓病協議会総会 出席
- 29日 代表質問 登壇

春風通信 Vol.20



高松市議会議員
春田 敬司
はるた けいし



オフィシャルサイト
<https://www.haruta.jp>
E-mail: info@haruta.jp



公式Line登録はこちら▶

春風通信 はるかぜつうしん Vol.20
発行者:高松市議会議員 春田敬司 発行日:2023年7月
連絡先:高松市香西東町14番地8 電話:087-881-6411



令和5年第4回高松市議会定例会から

令和5年度6月補正予算の特色(一般会計)

(1)骨格予算として編成した当初予算の「肉付け」に係る事業の実施(30事業・総額13.5億円)

- ・シティプロモーションの推進
(「選ばれるまち高松」となるため、積極的・機動的なシティプロモーションの取組を強化)
- ・ゼロカーボンシティ推進事業費
- ・犬猫一時保管施設整備事業費
- ・認可外保育施設入所第2子等保育料助成金
- ・民間活力の導入による中央公園再整備事業費 など

(2)補助認証・制度の創設に伴う事業の実施(12事業・約4.2億円)

- ・健やか子ども基金積立金
- ・丸亀町商店街再開発事業費
- ・身近な公園整備事業費
- ・消防団消防活動費 など

(3)当初予算編成後における情勢変化等への適切な対応(10事業・約2.1億円)

- ・社会保障・税番号制度推進事業費
- ・情報処理システム開発費
- ・一般廃棄物最終処分場整備事業費
- ・公共交通維持改善事業費 など

※事業費には、債務負担行為の額は含まない。

争点:放課後児童クラブの民間委託

これまでの直営方式から、令和6年度から一部業務を民間に委託する議案(5か年で42億8,250万円の債務負担行為)。

**不安を煽るのではなく解消する!
リスクを排除し、より良い環境にすることに注力する!**

支援員など多くの方に直接会い、ご不安な点やご意見を伺い議会に臨みました。その多くの声は「直営か民間委託の是非ではなく、いかに放課後の環境を良くするか」との内容面についてのご意見でした。

委員会では、今現場の不安を取り除くことが最重要であることから、処遇面の詳細を明らかにしました。そして、今後の議論を仕様書作成に反映させるために以下を提案。

- ①ICT技術活用の考え方
 - ②スタッフのスキルアップ支援体制を高く評価すること
 - ③民間による適正な競争となる取組み
- 更に「品川区のすまいるスクール」のように、より良い放課後環境整備のための取組「学校施設の開放」を訴えました。



6月29日の代表質問に登壇

代表質問の大項目

- 1.政治姿勢について
- 2.自治が充実し誰もが活躍できるまちについて
- 3.まちづくりについて
- 4.人生100年時代に安心と活力を与える対策について
- 5.子ども・若者の支援について
- 6.脱炭素カーボンニュートラルへの取り組みについて
- 7.防災・救急体制の強化について
- 8.教育問題について



*詳しい内容はインターネット(議会中継)でご覧になれます。

Q2.自治が充実し誰もが活躍できるまちについて

(1)小規模多機能自治の実現への考え

2020年1月に瓦町FLAG開催された、川北秀人氏による「持続可能な地域活動のヒントを学ぶ」との講演会で、「自治の目的は命と暮らしを守ること」「自治会・町内会は行事を半減して、福祉や防災に地域経営をプラスした取り組みが必要」と述べられていた。自治を回復しまちの課題を解決するために「協働から総働・小規模多機能自治へ」との理念の共有と浸透が必要だ。

A. 協働のパートナーである地域コミュニティ協議会と常に連携を図り、市民主体による地域のまちづくりを着実に進め「小規模多機能自治」の実現を図りたい。

Q3.まちづくりについて

(2)道路の維持管理に関する予算措置の強化を行う考え

今、市民に一番身近な公共施設として利用され不可欠な道路の維持管理が困難な状況にある。増大する修繕要望に対し既に4~5年待ちとなるなど工事が追い付いていない現状を明らかにし、道路の維持管理に関する予算措置の強化を求めた。

A. 必要な財源の確保はもとより、更なる組織体制の充実や業務改善に取り組むとともに、予算措置の強化に配慮したい。



Q4.人生100年時代に安心と活力を与える対策について

高松市でも高齢化と核家族化の急速な進展により、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯が増加しており、電球交換やゴミ出しなど、高齢者の日常生活を支える取り組みが益々重要になっている。特に免許証を返納し自家用車に乗れなくなった方から、買い物難民の窮状を切々と訴えられる機会が増えている。また一方では、健康維持と地域活性化のため、介護予防や健康づくり、ボランティアなどの活動に参加する高齢者等にポイント

を付与する「健康ポイント」や「ボランティアポイント」等の普及にも関心が集められている。各地の先進事例を紹介し、対策を講じるように求めた。

A. 「買い物支援」や「健康ポイント」、「ボランティアポイント」について庁内での検討を始めたい。

Q5.子ども・若者の支援について

(1)第三の居場所を含むひきこもり支援の拡充について

多様化・複雑化する社会環境では、子どもや若者が孤独や孤立化を経験するリスクが増加していることから第三の居場所(サードプレイス)への関心が高まっている。平成28年から繰り返し求めてきた、不登校やひきこもりのための居場所や学びの場への支援を実施するよう求めた。

A. 喫緊の課題であり、かつ地域共生社会の実現にも通することから、支援機関とのより一層の連携・協働により、支援の拡充を検討する。



(2)奨学金返還支援制度を創設する考え

多くの若者から「奨学金の返済負担を軽くして欲しい」との声を形にし、2021年から公明党のマニフェストに「地方で活躍する若者に奨学金返還を支援する」ことを掲げ全国で支援拡充の取り組みを推進してきた。これから社会人となる若者から選ばれる市となるためにも、そして地域の頑張る中小企業の人材確保を支援し活力ある地域をつくるためにも支援制度を実現すべきと求めた。

A. 早期に支援制度の詳細を取りまとめ令和7年度を目途に奨学金の返還を支援したい。若者のUターン就職や本市への定住につなげたい。



※ 1面で紹介した内容